

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月4日

【評価実施概要】

事業所番号	872000997		
法人名	医療法人社団 柴原医院		
事業所名	グループホーム つくしの森		
所在地	つくば市西高野842-4 (電話) 029-877-2940		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年6月21日	評価確定日	平成19年12月19日

【情報提供票より】(平成19年5月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年6月8日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤8人, 非常勤6人,	常勤換算12人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	1階建ての	～	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	500 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(5月25日現在)

利用者人数	16 名	男性 4 名	女性 12 名
要介護1		要介護2	1
要介護3	6	要介護4	7
要介護5	2	要支援2	
年齢 平均	86.6 歳	最低	78 歳
		最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	柴原医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは「暖かく家庭的な環境のもとで、利用者に安心と尊厳のある生活が送れること」を理念とし、職員全員で理念を共有するとともに、実現できるように、支援している。
ユニット間の行き来が自由にできるため、利用者間の交流や全職員が顔馴染みになれる環境となっており、職員は両ユニットの利用者を把握し、スムーズな支援をしている。
利用者一人ひとりの生活歴を把握し、畑仕事の実践や指導、指示など、利用者の状態を考慮し、職員とともに支えあう関係を築くとともに、その人らしい生活のリズムや希望に沿った外出支援及び余暇活動などを取り入れている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部)
	運営理念はわかりやすい言葉に変え、全職員に周知し、理念に添った介護を実践している。 入居者の金銭管理は出納帳をつけ、領収書と共に複写してホームだよりと一緒に家族に発送している。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員それぞれが、評価の意義を理解している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	6月に最初の運営推進会議を開催し、地域密着型について理解を得るための説明と活動報告を行った。 また、地域の代表者に自治会の回覧板でホームたよりの回覧と防災時の協力を依頼している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部)
	ホームの苦情や相談について窓口や担当者を設置するとともに、外部の苦情申し立て機関を重要事項説明書に明示し、利用時に説明している。 利用者の家族がホームへの意見を言える場の一環として家族会を設立しており、意見等について、介護計画や運営に反映している。家族へはホーム便りとともに、暮らしぶりや金銭管理の状況を報告している。 家族会を設立し、家族が意見を言える機会をつくり、介護計画や運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	今年度より自治会に加入し、地域に根ざした交流を図るよう、努めている。 老人会の方たちをホームに招待したり、幼稚園の運動会に招待を受け、参加するなど、地域交流に取り組んでいる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員が地域密着型サービスとしての理念を理解し、暖かく家庭的な環境のもとで、安心と尊厳のある生活支援を目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員間で理念とスローガンを共有するため、ミーティングや申し送り時に確認するとともに、日々の生活に活かすことを忘れないようネームプレートに入れている。 また、利用者を支援する中で実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今年度より自治会に加入し、地域に根ざした交流を図るよう努めている。 老人会の方たちをホームに招待したり、幼稚園の運動会に招待を受け参加するなど、地域交流に取り組んでいる。	○	地域との交流実施時の招待状や参加者などについての記録を残し、次回以降の参考資料とすることを提案する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員それぞれが評価の意義を理解している。 外部評価で分った課題について、理念を分かりやすい言葉に変えたほか、利用者の金銭出納簿の確認のあり方を改善している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	6月に最初の運営推進会議を開催し、地域密着型について理解を得るための説明と活動報告を行った。 また、地域の代表者に自治会の回覧板でホームたよりの回覧と防災時の協力を依頼している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議や市で開催する連絡会に参加しているが、十分にコミュニケーションを図るまでには至っていない。	○	運営推進会議の定期的な開催のほか、連絡会などの機会を通じて、意見交換を行うなど、市と関わりが持てるよう取り組むことを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用料の支払い時や利用者の金銭出納簿の確認、日常生活などの様子をお便りで報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの相談窓口や外部の苦情申し立て機関を重要事項説明書に明示し、利用時に説明している。 利用者の家族がホームへの意見を言える場の一環として家族会を設立しており、意見等を介護計画や運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の行き来が自由にできるため、利用者間の交流や全職員が顔馴染みになれる環境となっている。 職員は両ユニットの利用者を把握し、スムーズな支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や介護計画作成者の研修を受講しているが、職員の段階に応じた研修を受講する体制づくりには至っていない。	○	ホームのサービス向上を図るため、職員の経験年数や資格等に応じた研修を受講できるように、また、困難な場合でも内部研修を実施するなど、研修する機会を確保することが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	つくば市グループホーム連絡会に入会し、研修会への参加や交流をしているが、同業者とのネットワーク作りが充分に取り組めていない。	○	ホームのサービス水準の向上を図るためにも、グループホーム連絡会研修会への参加は管理職員だけでなく、他のグループホーム等と交流を図る上で職員にも機会を供与することが望まれる。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居の利用を勧めるほか、職員が利用予定者の自宅や入院先を訪問しながら利用者・家族が雰囲気になじむよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、畑仕事の実践や指導、指示など、利用者の状態を考慮し、職員とともに支えあう関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の希望や意向を把握するため、センター方式を活用し、日々の生活で把握した情報を記録している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意見を聞き、介護職員の気づきを介護計画に反映しているが、面会の少ない家族に対する意見交換の場を設営するまでには至っていない。	○	面会の少ない家族や介護計画作成時に話し合えない家族には、利用者に関する情報を提供し意見や要望等について、アセスメントに活かすことが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月ごとの定期見直しや利用者の状態の変化に応じた見直しを行っている。 また、月1回のケース検討会議やミーティングにおいて、利用者それぞれの生活状況等の話し合いを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が受診や入院などをせず、できるだけホームで対応できるよう協力医療機関との連携や医療連携加算を取得している。 また、利用者のかかりつけ医に診察を受けるときは、通院支援を行っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に受診を希望する利用者には、職員が通院支援を行うとともに、利用者の状態を情報提供している。 また、歯科受診を希望する利用者の対応をするなど、適切な医療を受けられる体制を築いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族からの希望により、医師・職員・家族と連携をはかり、看取りの体験をしているが、ホームとしての方針を決めるまでには至っていない。	○	利用者が重度化した場合や終末期の対応について、看取りの経験を基に関係者全体で話し合い、ホームとしての方針を決め、周知を図る取り組みが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ケース検討会議時、職員に接遇についての研修はしているが、徹底するまでには至っていない。	○	職員は利用者がその人らしく生きられるよう一人ひとりの人権を尊重するとともに、管理者は職員にプライバシーの保護や個人情報の漏洩を防止する働きかけを行うことが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活歴を把握するとともに、その人らしい生活のリズムや希望に沿った支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを把握し、普段の献立や行事の際に反映している。 また、食材の買い物や食事の準備を利用者とともにやっている。 職員と利用者がテーブルを囲んで食事をしており、会話や支援など、食事を楽しむことができるよう、雰囲気づくりをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は週2～3回入浴しており、入浴前には、バイタル（体温や血圧）の測定を行い、体調を確認している。 また、脱衣所は広く椅子やソファを置き、ゆったりできるように、また、男女が別々になるよう、配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者一人ひとりが、野菜づくりや洗濯物たたみ、折り紙や絵画などの得意なことや楽しみごとが自由にできるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩に出かけ、近隣の方々にお茶をご馳走になったり、庭に咲いている花を貰っている。 また、利用者の希望に応じて、買い物やドライブに外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は鍵をかけず自由に出入りできるようになっている。 帰宅願望の利用者には無理に制止することなく、職員が付き添って歩いたり、見守るなどの対応をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署へ連絡を取り、連携して避難訓練を実施している。 水、乾パンなど非常食の準備をしている。 運営推進会議を開催し、回覧板を利用して地域の協力を依頼している。	○	避難訓練は地域住民と連携を図るとともに、消防署の指導を受けながら緊急体制の充実を継続していくことが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養計算は設置法人の病院で行っている。 自力摂取が困難な利用者には職員が食事介助を行っている。 水分摂取量は職員がチェックし、補給に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂とオープンキッチンが一体となっており、広々としているが職員の目が行き届く共用空間づくりをしている。 また、共用空間には季節感を感じる、利用者の共同制作の作品を飾っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のお気に入りの絵画を掲示したり、仏壇を持ち込み、お線香を上げるなど、利用者が居心地よく生活できるよう持ち込み品の制限をしていないが、十分に働きかけるまでには至っていない。	○	家族に対し、本人の好みに合わせたもの、思い出の品物を持ち込むよう働きかけを期待する。

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。